

ご挨拶

第 109 回日本医学物理学学会学術大会 大会長

和田 真一

第 109 回日本医学物理学学会学術大会を、2015 年 4 月 16 日(木)～19 日(日)の 4 日間にわたって、日本医学放射線学会(JRS)、日本放射線技術学会(JSRT)との合同学術大会(JRC2015)として、国際医用画像総合展(ITEM)を併催し、パシフィコ横浜会議センターにおいて開催いたします。

大会メインテーマは「Be Cool and Practical!」です。W.C. Röntgen による X 線発見から 120 年目を迎えようとする今日まで、その始まりがそうであった様に、放射線医療は、数々のノーベル賞を含む最先端の物理学を初めとする科学技術の成果を臨床医学に積極的に取り込みながら目覚ましい進歩を遂げてきており、そのことは、この領域を大きく特徴付けていると言えます。画像診断、放射線腫瘍学、核医学の全ての領域において、X 線、 γ 線、或いは高エネルギープロトン・カーボンビームや、強磁場内での RF 波と人体構成原子核の相互作用による核磁気共鳴現象など、多くの物理現象を、疾病の、より高精度でより非侵襲的な診断・治療手段のために応用し、それを実践臨床に利用することにおいて、放射線医学は、現代医療の中で重要な役割を果たすに至ってきました。医学物理学は、この様な、放射線医学の歴史の中で生まれてきた学問領域であり、物理学の概念と知識を医学に応用する中で、その学術領域を築いてきました。その特徴は、徹底した論理性と実証主義を持って現象の本質理解に至ろうとすることにあります。現象の本質を捉え、科学的視点に立って、この領域で実践する者にとって、「Be Cool and Practical!」は永遠に変わらぬテーマと思われれます。

本大会では、JRS、JSRT との合同企画による 3 つのシンポジウムが開かれます。また、JSMP 海外特別招聘講演として、昨年改訂された AAPM-TG51 について National Research Council, Canada の Dr. Malcom McEwen による講演と、Importance of Adaptive Response for Cancer Prevention and Therapy と題する Fox Chase Cancer Center の Dr. Mohan Doss による講演を企画致しました。更に、2 つのテーマについて JSMP シンポジウムを企画しました。一方は、医学物理士臨床研修制度の確立に向けて、CAMPEP の医学物理レジデントコースに初回認定された Washington University のコース責任者 Dr. Eric E. Klein と、IAEA 医学物理レジデントガイドラインの起草メンバーの一人であり、現 IOMP 会長でもある、Dr. Kin Yin Cheung から基調講演を頂き、その後に国内のこの領域を代表するシンポジストと座長を中心に、今後、日本において医学物理士養成の系統的臨床研修制度をどう構築して行くかについて、議論して頂きます。また、シンポジウム 2 では、1990 年代初めに、本学会会員(現名誉会員)故館野らがその概念を世界に先駆けて発表し、提案から約 10 年間の実績を経て全米肺癌検診臨床試験(NLST)が始まり、更に 10 年後の 2011 年に NLST の結果として肺癌死亡率 20%低減が証明され、2014 年 11 月米国 CMS が公的検診実施決定を提案するに至った低線量 CT 肺癌検診をテーマに取上げました。肺癌死亡率低減に向けた医学物理に関連する今後の課題について考える機会

になればと思います。教育講演では、Dr. Eric E. Klein による、TG-142 に関する講演、放射線による DNA 損傷と細胞応答反応など、6つのテーマについてランチタイムレクチャーと早朝教育講演が行われます。

以上、国内外からの著名な研究者による、特別講演および、教育講演、シンポジウムが企画され、また、一般講演として医学物理学の最先端の研究発表が行われます。研究発表は、疾病予防、診断、治療に関する基礎物理を含む医学物理の広範な分野のすべてに渡り、これらの特別講演、シンポジウム、教育講演、一般講演を合わせて200を超える発表が予定されております。また、第105回大会から一貫して春の大会で推進されて来た国際化を発展的に継承し、今回は、CyPos 及び発表スライドの全面英語化に踏み切り、また、AFOMP(アジア・オセアニア医学物理学学会)会員の一般講演への積極的な参加受け入れるための方策を講じ、これに応じて4題の一般演題がAFOMP加盟国から寄せられました。海外招聘講演にこれらの講演を加え、本大会が、国内の会員はもとより、諸外国の同分野研究者との学術的交流を加速させ医学物理の研究及び臨床の更なる発展へとつながっていくことを期待したいと思います。

大会と同時に開催される国際医用画像総合展(ITEM)においては、140以上の企業による最新の放射線医療機器展示がおこなわれます。また、大会2日目には会場において合同懇親会が予定されています。

多くの皆様に本大会へ参加いただき、活発な議論が交わされ、この大会が実り多いものとなることを心より願っております。